

報告書名：老健施設デイサービスへの口腔ケア導入とその臨床免疫学的効果
研究者名：柏崎晴彦¹⁾，井上農夫男¹⁾，松原 泉²⁾，武田宏司³⁾
所 属：¹⁾北海道大学大学院歯学研究科口腔健康科学講座高齢者歯科学教室、
²⁾医療法人愛全会 愛全病院
³⁾北海道大学大学院医学研究科消化器病態内科学分野

【目的】

本研究では、デイサービスを利用している在宅高齢者に対する口腔ケアの効果についての EBM を示す目的で、口腔アセスメントシートと標準口腔ケアプランを作成し、施設デイサービスに口腔ケアを導入し、その介入効果を検討する。

【方法】

1. 口腔アセスメントシートおよび標準口腔ケアプランの作成
2. 口腔アセスメントシートおよび標準口腔ケアプランを用いた口腔ケア介入効果
 - 1) 札幌市内にある 5 箇所の老人保健施設のデイサービスに本アセスメントシート及び標準ケアプランを配布する（対象者：84 名）。
 - 2) 週 1 回の歯科医あるいは歯科衛生士による専門的口腔ケアを行い、6 ヶ月後に上記アセスメントによる再評価を行う。口腔ケア介入前後の平均体温および食事摂取量を比較検討する。

【結果】

1. 口腔アセスメントシートおよび標準口腔ケアプラン作成
各職種が共有できるアセスメントとするために、口腔アセスメントシートから専門用語を排除し、各項目に 0～3 までの 3 段階でスコア化できるようにした。標準口腔ケアプランは、要点を明確にし、作業手順（ケア手順）を極力簡略化した。
2. 口腔アセスメントシートおよび標準口腔ケアプランを用いた口腔ケア介入効果
46 名（男性 12 名，女性 34 名，平均年齢 83-35 歳）のデイサービス利用者に対して口腔ケア介入した結果、口腔アセスメントスコアの 1 人平均値は、介入前 6.413，介入 6 ヶ月後 0.239 と、介入 6 ヶ月後に口腔の状態が改善した。平均体温については口腔ケア介入前後で有意な差は見られなかった。食事摂取量については、口腔ケア介入 6 ヶ月後に摂食量が著明に改善した対象者が 2 名いた他、軽度の食事摂取量の増加を認めた対象者が散見された。

【結論】

各職種が共有できる口腔アセスメントシートと標準口腔ケアプランを用いることにより施設デイサービスへの口腔ケア導入とその評価が容易となった。今後協力施設や対象者を増やし、さらに口腔ケアの介入効果の科学的根拠を検討する予定である。